

2012年6月29日(金)19:00～ 弊社会議室にて、
第1回 キャリアセミナー「28歳からのキャリアを考える」を開催しました。

参加して下さった皆さんの年齢は23～33歳。

若い皆さんと、これからの将来について真剣に、そして和やかに語り合う時間となりました。



司会は、入社6年目の篠原。
底抜けに明るく、正直なキャラクターは、
社内のムードメーカー的な存在でもあります。



[シニアアソシエイト 篠原径子]

最初に登場したのは、マネージグパートナーの浜村です。
現在46歳の浜村、28歳の頃を振り返りながら、
「代替性のある仕事だからこそ、代替できない人になる」というテーマの話に。
パソコンのない時代に、どうやったら膨大な量の仕事をこなせるか？
と考えた末、仕組みづくりに励んだとのこと。
発想、柔軟性、行動力。
あらためて、「それが若い人の武器なんだ！」
ということ感じさせられる内容でした。



[マネージングパートナー 浜村浩幸]

次に登場したのは、パートナーの田中です。
会社概要、事業内容を中心にした話でした。
銀行員から小規模会計事務所に転職し、
そして当法人へという、ユニークなキャリアを
持つ田中。
嬉しい感想もいただいています。



「夢を持つことと、視野を広く持つということの大切さを感じた」(20代女性)

[パートナー 田中秀治]

次は、先輩体験談のコーナーです。

1人目は、28歳の時に転職を経験したという、樽松。

28歳のリアルな悩みから、その後のキャリアを組み立てていく話。

大手・中堅・中小と、具体的なメリット・デメリットもあわせて本人の決断プロセスを紹介。

「仕事の目標や転職動機がまったく同じで、驚きました」(Sさん男性)

「入社2年目でそこまでやれているなんて、焦りと悔しさを感じました」(Yさん男性)



[アシスタントマネジャー 樽松貴]

もう一人の先輩、島根県出雲市出身

入社 4 年目の佐藤達夫です。

最初は、比較的希望の小さな事務所に勤務。

ある程度、仕事にも慣れ、一通りいろんなことができるようになった後、渴望感を感じたという佐藤。

新しい挑戦は、自分から踏み出さないといけない。

そう思わせるようなエピソードでした。



[マネジャー 佐藤達夫]

座談会は、3 チームにわかれておこないました。

◆A チーム

▽参加者の声

「何がやりたいのか考えられるようになったのは、

まさに 28 歳くらいからだった」

「何か得意分野を持ちたい」

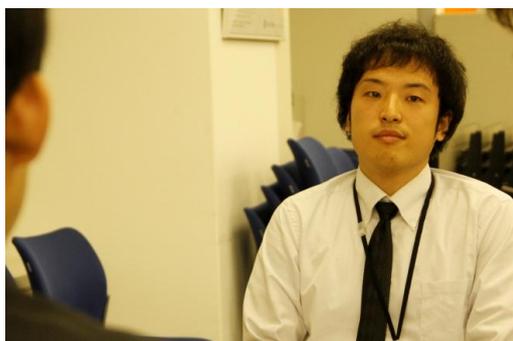
▽先輩の声

「やってみること、やり続けること。それが得意になる。

量が質になる」

「法人によってできることできないことがある。

キャリア観が定まらないまま転職先は決めにくい。」



◆B チーム

▽参加者の声

「今までやったことのない、新しいジャンルへの挑戦をしたい」

「国際税務にチャレンジしたい。

英語はどのくらい必要ですか？」

▽先輩の声

「英語はまったく話せないレベルからできるようになった人もたくさんいます」

「使われる言葉がある専門用語だから、税務知識があればわりと早く習得できる」

◆C チーム

▽参加者の声

「試験の'免除'についてのコンプレックスが消えません」

「繁忙期のすさまじい忙しさに、不安になります。

何かいい方法は？」

▽先輩の声

「コンプレックスは一生ついてまわる。

私の場合、逆の発想で得意をつくることで、

自然と気にならなくなりました。」

「国際・国内の部門をなくして、繁忙期を平らに

しようとチャレンジしています」



最後に、採用担当の田代より

今年の採用について説明と、御礼のことば。

HP や電話の問い合わせも、田代が担当していますので

何か疑問がありましたら、いつでもご連絡ください。

キャリアセミナーと堂々と掲げてスタートしたものの、

いかんせん、私たちもはじめての経験。

つたない部分も多々あったかと思えます。

しかしながら、みなさんとても真剣なまなざしで

議論に参加してくださり、予想以上の盛り上がりだったように思います。

「不安だったのは、私だけじゃなかったんだなあと思いました(Yさん女性)」

「おなじ世代のおなじ悩みを持つ人との意見交換は貴重でした」(Sさん女性)

「私の人生において、非常にプラスになった時間だった」(Wさん男性)

参加者のみなさんの上を向いて頑張ろうという意欲に、

私たちも刺激を受けました。どうもありがとうございました。

リクルーティングチーム一同